

「包む」に挑む
「包む」を創る

第59期株主通信

2020年1月1日～2020年12月31日

ダイナパック株式会社

証券コード：3947

ごあいさつ

お客様の“笑顔”が私の報酬です。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスによりお亡くなりになられた方々、ご遺族の皆様にご哀悼の意を申し上げますとともに、感染された方々に心よりお見舞い申し上げます。

ダイナパックは創業以来“包装”を通じて人から人へ、企業から企業へとお客様の想いを大切に包んで世界中に届けてまいりました。

これからはさらに加速する市場の変化、技術革新、ニーズの多様化が予想されます。

しかし、モノを包む“包装”を通じて人から人へ、企業から企業へと想いを大切に届けるという基本哲学は変わりません。私たちはそれをさらに向上させるべく、技術力、デザイン力、マーケティング力、提案力、スピード力などに磨きをかけ、お客様の満足を勝ちとりたいと思っています。

私は全社員と心をつなげて、ダイナパックならではのイノベーションを創出し、お客様の期待に応え、世界中の



人々から笑顔の報酬を頂けるよう努力を重ねてまいります。今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ここに当社第59期（2020年1月1日から2020年12月31日まで）株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2021年3月

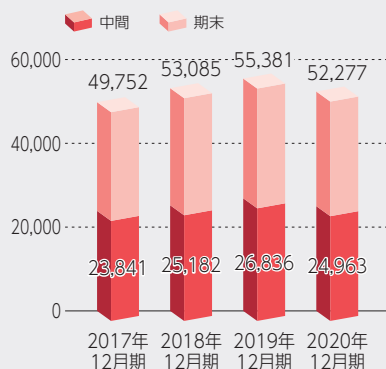
代表取締役社長 杉山 喜久雄

業績ハイライト

● 売上高

(単位：百万円)

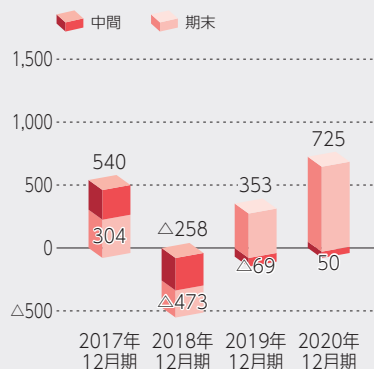
522億77百万円（前期比5.6%減）



● 営業利益

(単位：百万円)

7億25百万円（前期比105.0%増）

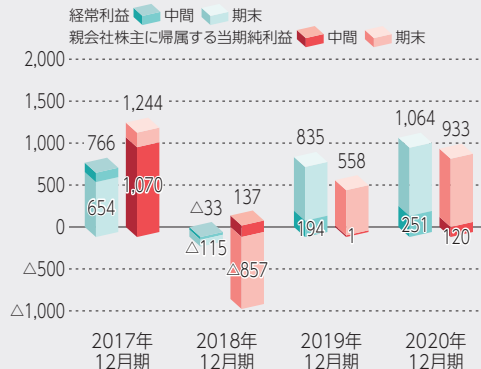


● 経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)

10億64百万円（前期比27.5%増）

9億33百万円（前期比67.1%増）





経営環境について

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、個人消費や企業活動が低迷し、極めて厳しい状況で推移しました。年度の後半には、各種政策の効果や海外経済の改善で、一部に持ち直しの動きがみられましたが、年度末にかけて感染が再拡大し不透明な状況が続いております。

海外経済においても、従前からの米中貿易摩擦による通商問題に加えて、感染拡大の影響により経済活動が停滞しました。いち早く経済活動を再開した中国など部分的には回復に向けた動きもみられますが、感染が再拡大している地域もあり、経済活動の再開には地域差がある状況となっております。

このような環境下、当社グループにおいては、物流に不可欠な包装資材を供給する社会インフラとしての使命を全うするため、従業員の新型コロナウイルス感染リスク抑制に取り組みつつ、製品の安定供給に努めてまいりました。

段ボールの国内生産動向は、1～12月累計数量（速報値）では前年比97.1%で、4月～11月までの8か月間、新型コロナウイルス感染拡大による景気減速の影響を受けて前年を下回って推移しました。

当期の取り組み

当社グループの国内販売数量は、段ボールケースについては、加工食品向けは一部の巣ごもり需要もあり比較的堅調に推移したものの、電機機械や住宅設備等の工業製品向けを中心として、新型コロナウイルス感染拡大にともなう景気後退の影響による落ち込みを受け、青果物向けでも天候不順による需要減となり、また、段ボールシートにおいても工業製品向けの減少が響き、段ボール全体では前年比93.4%となりました。

収益面においては、販売数量減少の影響は受けたものの、前年に実施した製品価格の改定と顧客ポートフォリオの見直しの効果や生産に係る費用を主体としたコスト低減効果により、利益計上となりました。

海外事業については、年度の前半には、サプライチェーンの寸断やロックダウンの影響を受けましたが、後半は比較的堅調に推移し、一定の利益を確保することができました。

当社グループでは、当事業年度を最終年度とする中期経営計画に基づき、構造改革を起点とする収益強化を図り、成長戦略および差別化戦略に必要な投資を継続するとともに、財務基盤およびコーポレート・ガバナンスの維持強化に努め企業価値の向上を目指してまいりました。

特に重点課題とした関東における構造改革では、2016年にグループ化したクラウン紙工業をプラットフォームとする紙器事業の再編や2018年にグループ入りした旭段ボールとのシナジー効果による関東段ボール事業の収益力強化に取り組みました。成長事業と位置づけた海外事業では、マレーシアにおいて2019年に現地メーカーを買収し、グループ内で段ボール生産ができる体制を構築しました。

また、差別化戦略としては、2016年に川越事業所に導入したデジタル印刷機やグループの総合力を活用したSP（セールスプロモーション）事業に取り組みました。

以上の結果により、当社グループの業績は次のとおりとなりました。

〔連結〕

売上高	52,277百万円	前期比	94.4%
経常利益	1,064百万円	前期比	127.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	933百万円	前期比	167.1%

対処すべき課題

今後の日本経済は、中期的には新型コロナウイルス感染症の収束を前提とした個人消費・設備投資の拡大により緩やかな回復が予想されるものの、足元では感染の拡大による緊急事態宣言が再発出されるなど不透明な先行きであり、東京五輪開催やワクチン接種の動向など、当面は不確実性が高い状況が続くことが見込まれます。

また、米国、欧州、アジア各地域においても経済活動の再開が進められておりますが、感染の再拡大によるリスクをはらんだ状況であり、景気の先行きは予断を許さない状況が続くものと考えられます。

このような環境において当社グループは、新型コロナウイルスによる影響で落ち込んだ需要の回復期を、次なる成長に向けた準備をする期間と捉え、2021年から2023年を対象とする「中期経営計画」を策定し、スタートしております。

収益体質への転換を確実なものとするとともに、さらにその先の成長に向けた取り組みを進めてまいります。

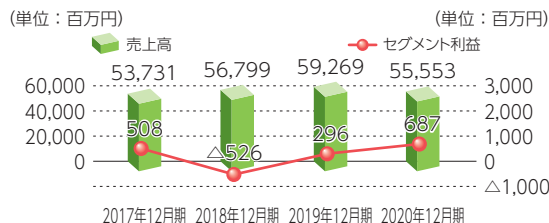
セグメント別概況

包装材関連事業

事業内容

段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器、美粧段ボールケース、オフセット印刷物、プラスチックフィルム等の製造販売、機械設備等の販売

当セグメントにおきましては、売上高は55,553百万円（前期比93.7%）、セグメント利益（営業利益）は687百万円（前期比231.6%）となりました。



不動産賃貸事業

当セグメントにおきましては、売上高は394百万円（前期比101.1%）、セグメント利益（営業利益）は329百万円（前期比101.1%）となりました。

連結財務諸表

詳細情報は

ダイナパック IR

検索



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 2019年12月31日現在	当期末 2020年12月31日現在
資産の部		
① 流動資産	21,704	21,386
② 固定資産	40,856	45,476
有形固定資産	21,475	21,223
無形固定資産	373	816
投資その他の資産	19,007	23,436
資産合計	62,561	66,862
負債の部		
③ 流動負債	19,396	18,893
④ 固定負債	7,448	8,754
負債合計	26,844	27,647
純資産の部		
株主資本	29,011	29,471
その他の包括利益累計額	6,652	9,688
新株予約権	8	8
非支配株主持分	44	46
⑤ 純資産合計	35,716	39,214
負債純資産合計	62,561	66,862

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 2019年1月1日から 2019年12月31日まで	当期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで
売上高	55,381	52,277
売上原価	46,953	43,319
売上総利益	8,427	8,957
販売費及び一般管理費	8,073	8,232
営業利益	353	725
経常利益	835	1,064
親会社株主に帰属する当期純利益	558	933

連結キャッシュ・フロー計算書

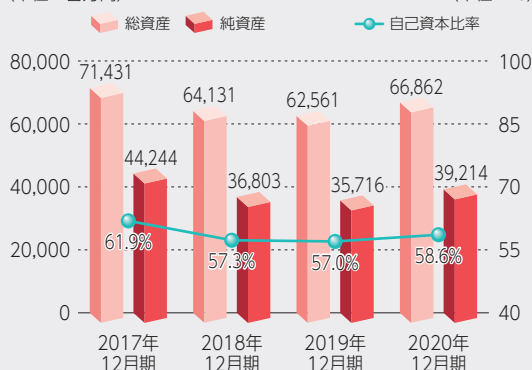
(単位：百万円)

科目	前期 2019年1月1日から 2019年12月31日まで	当期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで
⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,662	2,792
⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,392	△ 1,616
⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 923	△ 1,019
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	74
現金及び現金同等物の増減額	332	230
現金及び現金同等物の期首残高	1,586	1,997
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	77	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,997	2,228

総資産／純資産／自己資本比率

(単位：百万円)

(単位：%)



Point

- ① 流動資産では、売上高の減少にともなう売上債権の減少などにより、前連結会計年度末に比べ3億18百万円減少し213億86百万円となりました。
- ② 固定資産では、投資有価証券の含み益の増加などにより、前連結会計年度末に比べ46億20百万円増加し454億76百万円となりました。
- ③ 流動負債では、仕入債務の減少などにより、前連結会計年度末に比べ5億2百万円減少し188億93百万円となりました。
- ④ 固定負債では、投資有価証券の含み益の増加にともなう繰延税金負債の増加などにより、前連結会計年度末に比べ13億6百万円増加し87億54百万円となりました。
- ⑤ 純資産では、投資有価証券の含み益の増加により、連結会計年度末に比べ34億98百万円増加し392億14百万円となりました。
- ⑥ (営業活動によるキャッシュ・フロー)
営業活動により得られた資金は27億92百万円(前連結会計年度は26億62百万円)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益10億94百万円および減価償却費17億58百万円などによるものであります。
- ⑦ (投資活動によるキャッシュ・フロー)
投資活動により使用した資金は16億16百万円(前連結会計年度は13億92百万円)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出13億14百万円、子会社株式取得による支出4億88百万円および投資有価証券売却による収入2億4百万円などによるものであります。
- ⑧ (財務活動によるキャッシュ・フロー)
財務活動により使用した資金は10億19百万円(前連結会計年度は9億23百万円)となりました。これは主に、長期借入金の返済4億52百万円および配当金の支払4億94百万円などによるものであります。

会社情報



会社概要 (2020年12月31日現在)

商 号	ダイナパック株式会社
本 社	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目1番1号
登記上の本店所在地	〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目14番15号
資 本 金	40億円
従 業 員	2,307名 (連結) 680名 (単体)
設 立	1962年 (昭和37年) 8月
事 業 内 容	段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器、美粧段ボールケース、オフセット印刷物、プラスチックフィルム等の製造販売、機械設備等の販売、不動産の賃貸

役員 (2020年12月31日現在)

代表取締役社長	杉 山 喜久雄	取締役	深 井 靖 博
代表取締役副社長	齊 藤 光 次	取締役	富 澤 豊
取締役専務執行役員	草 野 雅 夫	取締役常勤監査等委員	仲野谷 公 美
取締役常務執行役員	大 山 英 男	取締役監査等委員	児 玉 弘 仁
取締役常務執行役員	野 澤 政 司	取締役監査等委員	松 若 恵理子
取締役常務執行役員	篠 岡 尚 久		

- (注) 1. 取締役の深井靖博氏および富澤豊氏は、社外取締役であります。
2. 取締役監査等委員の児玉弘仁氏および松若恵理子氏は、社外取締役監査等委員であります。
3. 当社は、取締役の深井靖博氏、富澤豊氏および取締役監査等委員の松若恵理子氏を東京・名古屋両証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しております。
4. 取締役監査等委員の松若恵理子氏の戸籍上の氏名は、松本恵理子であります。

ネットワーク



国内事業所	7
国内グループ会社	9
海外グループ会社	8

国内・海外に広がる、ダイナパック・グループ

川越事業所



旭段ボール(株)厚木工場



ダイナパック(株)本社



多治見ダイナパック(株)

土岐ダイナパック(株)中津川工場

宮城ダイナパック(株)古川工場

宮城ダイナパック(株)登米工場

福島事業所



宇都宮ダイナパック(株)

旭段ボール(株)岩槻工場

クラウン紙工業(株)

東京営業所

沼津ダイナパック(株)

静岡事業所



(株)小倉紙器

つくば事業所



旭段ボール(株)本社

土岐ダイナパック(株)



2020年1月20日付けで、株式会社小倉紙器の株式を取得し、子会社化しました。

株式情報

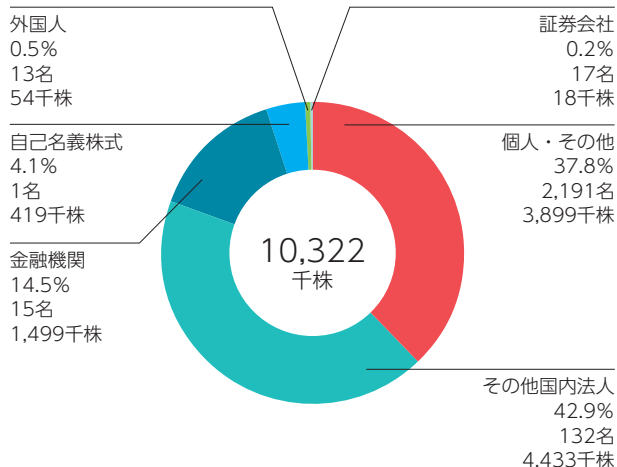
発行済株式総数 9,903,573株 (自己株式419,018株を除く。)
株 主 数 2,369名
単 元 株 式 数 100株
大 株 主 の 状 況

(2020年12月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
カゴメ株式会社	1,793千株	18.1%
ダイナパック取引先持株会	990	10.0
株式会社三菱UFJ銀行	313	3.2
伊藤忠紙パルプ株式会社	289	2.9
丸紅紙パルプ販売株式会社	277	2.8
レンゴー株式会社	275	2.8
王子マテリア株式会社	272	2.7
第一生命保険株式会社	268	2.7
大王製紙株式会社	241	2.4
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	210	2.1

(注) 1. 持株比率は自己株式を控除し算出しております。
2. 当社は自己株式419千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

● 所有者別株式分布状況



ホームページのご案内

当社の

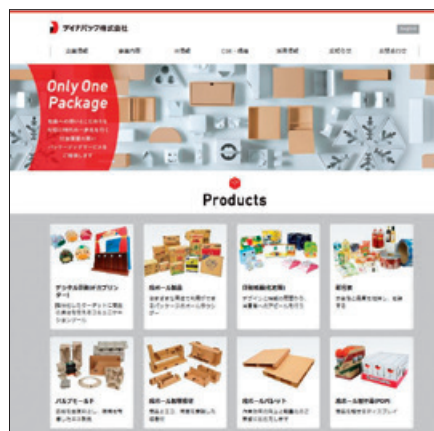
- 会社情報
- IR情報
- 採用情報

などはこちらからご覧ください。

ダイナパック

検索

<https://www.dynapac-gr.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月下旬
単元株式数	100株
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年12月31日
中間配当	毎年 6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店で行っております。
電子公告・決算情報掲載の ホームページアドレス	https://www.dynapac-gr.co.jp/koukoku.htm

(ご案内)

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

TOPIC

パルプモールド 開発営業部新設



ナースコール



パルプレート

2021年1月1日付で、パルプモールド開発営業部を新設しました。

パルプモールドは、古紙を主原料としたリサイクル製品であり、自然にかえりやすい製品です。

世界中で脱プラスチックが注目されているなかで、パルプモールドは環境に与える負荷が少ないことから、様々な分野での活用が期待されています。

当社は、すでにパルプモールドを製造しておりますが、今回の組織改編によって、より一層力をいれて「人に、モノに、地球にやさしい企業」を目指してまいります。

ダイナパック株式会社

本社：名古屋市中区錦三丁目14番15号

TEL：052-971-2651



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。